

第4回放射線管理士セミナーを終えて

社団法人 秋田県放射線技師会
会長 土佐鉄雄

平成24年9月15日(土)、神奈川県放射線技師会放射線管理士部会と(社)秋田県放射線技師会管理士部会の合同セミナーが秋田県で開催された。「緊急被ばく医療の取り組み - 原発が立地しない県では -」のテーマで、講演3題、実習、特別講演、意見交換、総括の順に行われた。

講演1は、神奈川県放射線技師会災害対策委員吉田篤史氏が神奈川県技師会と神奈川県の原子力災害への取り組みについて述べた。放射線管理士が指定避難所になっている学校関係者、医療機関、消防機関等と合同訓練を行っている様子や、原子力災害計画に神奈川県放射線技師会の医療機関での放射線防護の実施、避難所等での住民スクリーニング作業への協力が明記されていること、日頃から行政と連携しており福島原発事故でも円滑に活動できたことが報告された。講演2は、神奈川県放射線管理士部会長濱田順爾氏が、神奈川県管理士部会の活動について述べた。「定期的な知識や技術の習得・評価の継続・恒常的な体制・組織の構築と維持」が目標で、福島原発事故のような有事に備え要請に応えるべく活動の継続が必要、と述べた。講演3は、秋田県放射線技師会副会長藤原理吉氏が放射線管理士部会設立の経緯と活動について述べた。秋田県では医療被ばく低減を志向した活動が主であったが、今後は緊急被ばく医療についても検討する必要性を述べた。

次にNASチーム(横須賀三浦原子力災害特別派遣チーム)による「サーベイメータの使用法」、「セグメント法の紹介及び実習」を行った。紙コップによるセグメント法の実習と、マントルを模擬線源として使用しそれを隠した被験者をスクリーニングして探し当てるゲーム方式の演習が行われ、楽しく学ぶことができた。

特別講演では、秋田県横手保健所大須賀貴人氏が緊急被ばくに対する秋田県の現状について述べた。秋田県は緊急時防護措置の区域外だが、今後放射性物質に関する知識の普及啓発、原子力災害を想定した防災計画整備、原子力防災訓練実施、被ばく医療機関整備、機材準備等が必要で、放射線障害が発生する恐れのある事故・トラブル発生時は、文部科学省への報告のほか医療法施行規則により所管の保健所、警察署、消防署、その他関係機関にも通報する必要があると述べた。

意見交換会では、今後の活動や緊急医療被ばくへの取り組みについて活発な議論が行われた。

最後に神奈川県放射線管理士部会長濱田順爾氏から、他県と連携し緊急被ばく医療に対する取り組みを継続的に進めていくことが重要である、と総括があった。

今回、神奈川県放射線管理士部会との合同セミナーを開催し、神奈川県は行政と連携した活動を行っていることから、秋田県の災害対策が立ち遅れていることを実感した。日本は2011年3月11日に発生した東日本大震災により甚大な被害を受けたが、未だ復旧・復興が十分に進んでいない状況である。今後、防災対策として官民一体となった災害対策計画の整備と定期的な訓練が重要であると思われる。また、我々診療放射線技師は医療における放射線の管理や災害時における放射線被ばくに対し、専門家として適正に対応できるよう教育・訓練に積極的に取り組んで行く必要がある。